

令和7年3月31日
世田谷区立給田小学校
校長 飴家 純

前年度の改善方策についての結果

令和5年度の改善方策を受けて、令和6年度の改善事項

- ① 「友達との関わりを深め、学び合うことで学校生活を楽しむ」児童の育成
- ② 「ICTを有効活用しながら、主体的に学ぶ」児童の育成
- ③ 「粘り強く学習に取り組み、自分の目標に向けて努力することができる」児童の育成

具体的な方策

- ① 今年度のテーマを「向き合う」と設定し、教員の中で共通理解を図り、教育活動を進める。授業、行事、特別活動など、様々な場面で子ども同士が関わりを豊かにする時間を意図的に設定していく。また、アフターコロナということで、学芸会を6年ぶりに開催し、子どもたちの活躍の場を増やす。
- ② タブレット端末を活用した授業を全クラスで行い、学習の効率化を図る。問題解決型の学習を意図的に設定し、個々が探究できる学習を増やす。生活科、総合的な学習の時間だけでなく、理科や社会などでも、探究の時間を増やし、児童の主体的に学ぶ気持ちを高めていく。
- ③ 地域の人材と連携しながら、キャリア教育を進め、なりたい自分像を描くきっかけをつくる。また、どの教科でも基礎・基本の力の定着を図るために、スマールステップで個に合わせたゴールを設定し、基礎学力を身に付けさせる。

改善の結果

- ① 児童のアンケート調査の中で、「学校行事について」「先生について」の項目が上がった。児童同士の関わりが増え、学校生活への満足度が向上したと言える。大きな行事を通して、どの学年も心が成長した児童が多い。「向き合う」ことを大切にした教育活動を推進してきたことにより、教員と子どもの信頼関係が強くなり、「相談できる」と感じる児童が増えた。
- ② 1年生から6年生まで、各学年の発達段階に応じて、ICTを有効活用しながら授業を進めることができた。タブレット端末を活用した学習は、その場の理解は深まるが、定着という部分ではそれほど効果が見られなかった。従来のような書く活動も大切にしながら、タブレット端末が必要な場面を見極めていくことが今後の課題である。また、使い方のルールを守ることができない児童も見受けられたので、情報モラル教育の推進が必要である。
- ③ 学校支援コーディネーターの協力を仰ぎながら、どの学年も地域の方々をゲストティーチャーに招いたり、実際に体験させていただいたりと、学びを深めることができた。今後も、繋がる給田のスローガンのもと、様々な体験学習を充実させていく。